

平成 28 年度 第 2 回 大阪府立桃谷高等学校 学校協議会 記録

司会：吉岡教頭(I・II部教頭)

1. 日時 平成 28 年 12 月 2 日 (金) 15:00~17:00
2. 場所 大阪府立桃谷高等学校 会議室
3. 出席者 中島順次 会長
梅田和子 委員
田口直美 委員
4. 主な内容 平成 28 年度学校経営計画 取り組みの進捗状況について
5. 説明・協議

【多部制単位制III部の報告】

①具体的な取組計画・内容

(1) 確かな学力の育成及び教員の授業力の向上

- ⇒11月21日、11月24日の研究授業ではアクティブラーニングによって生徒の興味関心を引き付け、主体的な深い学びの実現をめざした。
- ⇒パッケージ研修Ⅱについて、教育センターの指導主事の指導のもと、12月20日に理科の研究授業を行う予定。
- ⇒近年、生徒の単位習得率は減少傾向にあったが、夏季休業後の9月上旬の授業と考査を休業前に変更すると、習得率が7.7%増加した。
- ⇒平成28年度前期の授業アンケートについて、多くの項目について、80%以上の肯定率を示し、全てが昨年度の数値を上回った。特に、授業展開の項目が90%超え、授業分析の項目も90%近い。
- ⇒全教職員がスマートフォン使用に対する指導を徹底する。(新たなルールづくり)「持たない 出さない 鳴らさない」のポスターの効果は出ている。使用が度重なれば懲戒処分も考える。保護者の理解も得られるようにする。

(2) キャリア教育及び進路指導の充実

- ⇒全教員が当番制で進路指導にあたる。また、キャリアカウンセラーを招いて、教員対象の研修も含めた、計7回の研修を予定。
- ⇒就職困難生徒に対するサポートや1次試験不合格者に対するサポートに加え、進路選択困難生徒に対しての適性検査などをおこなう。
- 現時点で1次試験合格者は昨年度より多い16名で合格率58%。

(3) 豊かな心の涵養及び「社会の一員」としての自覚の醸成

- ⇒体育祭、文化祭などで自己肯定感、自己有用感を持たせる仕掛けづくりをする。

(4) 学校運営体制の確立及び人材の育成

⇒従来の「フレッシュマン・セミナー」に新たな試みを追加。

各分掌長からの講義だけではなく、2年目の教諭がファシリテーターになって研究発表を行なう機会を設けた。学校をこれから支える若手教員の団結力をうながす。

②補足

- ・夏期休業の時期を変更した点について

従来の時期では、休業明けにテストと秋入試があつて出席習慣が乱れる生徒が多い。

しかし、夏期休業の時期を遅らせることによって秋入試を休業中に行えるようにした。

③協議

- パッケージ研修の効果はあつたのか？

⇒Ⅲ部の生徒としてどのような生徒に育てたいかという思いが教員によって違う。

これを共有することに意味がある。生徒の寄り添いと授業改善は、「見直そう」という意識改革こそが成果だと思っている。

- 授業アンケートの回答率はどれくらいなのか？

⇒637枚。出席できている生徒に関してはほぼ回収できている。しかし、本校の授業の形態上、授業ごとにアンケートを取るの、全生徒のうちの回答率を把握するのは難しい。おそらく5割ほどだと思われる。

【多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部の報告】

①具体的な取組計画・内容

(1) 本校のあり方や方向性の検討と、生徒・保護者・地域等の期待に応える教育活動の展開

⇒保護者懇談の実施回数が昨年度では前期40.7%、後期26.7%の実施率が今年度の前期では45.5%に上昇。

⇒現時点でのHP更新回数50回、ブログ更新回数32回、メルマガ発行回数45回。
(昨年度はそれぞれ、45回、22回、34回であった)

⇒コミュニケーションタイムでは分掌を超えて、教員間での意見交換を促す。

⇒防災研修2回、人権研修3回、支援教育研修2回実施。

⇒初任者のメンターとして2～4年目の教員を充てるMMP(桃谷メンタープログラム)は全13回を予定している。

(2) 生徒の現状をふまえた「学びのシステム」の構築と、進路指導體制の充実

⇒アウトカム指数とは…自尊感情・自己有用感・職業観勤労観・自己理解・将来像アウトカム指数の新入生の入学時と1年後の肯定率の変化と在校生の肯定率の変化を検証。新入生は20%上昇、在校生は5%の上昇が見られた。

⇒学校目標では、「知識・技能が身についた」の3.2%以上の数値をめざす。
今年度の前期の集計結果では3.1%で少し届かず。後期の分は現在集計中。
⇒研究授業については、年間で各教科で1回ずつ実施するようにしている。
授業見学後のアンケート提出率は81.8%。あと2回の研究授業が残っているので
まだ増える予定。

(3) 生徒の自尊心を回復し社会性の向上を図る取り組み及び人権教育の確立

⇒体育祭(6/16 実施) 参加生徒 240名 満足度 82%
今年度の追加項目…開会式で音楽部の演奏、グラウンド種目の追加
⇒文化祭(11/8 実施) 参加生徒 267名 満足度 92%
参加クラス 24クラス、ステージ発表 7団体
⇒進路説明会(11/16 実施) 参加生徒 214名(昨年よりやや減少) 満足度 87%
全 30 講座を開講し、生徒は自分の好きな講座を事前に選び、職業体験を行った。
⇒現在部活動に参加している生徒数は 77 名。現在活動中の部活動は 10 のクラブ。
全国大会、近畿大会、府大会に出場したり、イベントなどに出場した。
⇒図書館利用者 3,011 名 (3 過程すべて合わせた人数)
図書館の居場所としての充実を図る。

②補足

- ・進路説明会の参加人数が減った理由 (進路部長の憶測)
5月に100団体を招待してブース形式で進路相談会を実施した。
こちらは昨年度より若干の増加が見られた。
(理由)→生徒の進路決定が早かった?
専門学校での職業体験が生徒のニーズと合わなかった?
(対策)→大学の参加団体を増やしていきたい。
- ・満足度が87%と他に比べて低い理由
(理由)→他のアンケートは4段階調査だが、本説明会は5段階調査であるため。

③協議

○進路説明会の参加については、生徒は全員希望のコースに参加できるのか?
⇒今年度は全生徒第一希望で参加できている。
昨年度より参加団体が大幅に増加。そのため、生徒の希望がバラけた。
しかし、各ブースあたりの参加人数が減ってしまうのでこれ以上の増加は難しい。

【通信制課程の部】

①具体的な取組計画・内容

(1) 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立

⇒学校教育自己診断について

- ・生徒に対してアンケートを郵送、対応中。
結果を分析後、第三回協議会にて結果を報告する予定。

⇒生徒の基礎学力育成について

- ・各教科において、中卒の1年次生を対象に基礎テストを実施し、スクーリングや本人の意識改革に役立てている。
- ・レポートの作成方法のアンケートを実施し、教科を超えた研究協議に活かす

⇒教育システム改革の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化について

- ・学校評価推進チームにおいて、スクーリング、レポート評価について内容を検討。
次年度に向けて、総括を受け、分掌再編について検討協議を5回実施した。

⇒生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直しについて

- ・生徒支援と相談体制の強化・充実の観点から、5月に人権推進委員会の校内研修で様々な障がいに対する理解を深めた上で、10月に詳細な連絡・報告を行い教員間で情報共有に努めた。
- ・通信制独自の校務処理システムについて校務処理システム係を立ち上げ、チームで管理運営を行い、システムの運用に関する研修を隔週で実施。

(2) 「確かな学力」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上

- ・6月に実施した第1回レポート添削評価では、4段階評価で3.1以上が76.2%
- ・レポート及びテスト内容の点検、改善体制の検討について、研修や教職員アンケートを実施。そのアンケートで教科会議の充実と教科・科目の取り組みを明確化していると回答した教員が67.9%、レポート及びテストの内容の点検、改善体制の検討を実施していると回答した教員82.8%
- ・HP内の教科のページを充実(動画や教材のダウンロード)した。14科目中9科目
- ・NHK高校講座でスクーリング代替。4科目が実施中である。
- ・進学希望対象者へ国数英の講習を実施した
- ・職員会議時に、研修会参加者による報告を6回実施した

(3) 生徒支援と相談体制の強化・充実

- ・生徒及び保護者との面談・懇談や相談会を行った。
- ・特別支援委員会として、支援の申し出がありその必要のある生徒で、個別の教育支援計画を作成した15名について、学習活動の進行状況等を議題として支援委員会を定期的を開催した。
- ・生徒の居場所作りの一環として、「ほとりカフェ」の運用を昨年度に引き続き行っている。今年は9月から実施し、スクーリングと被らないように、スタッフを増

員し 2～3 名の体制で 12 回の予定である。

- ・教職員研修で、要配慮生徒情報の報告と共有を行った。

(4) 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実

- ・大阪地域職業訓練センター、財団法人大阪府障害職業教育振興協会(A'ワーク創造館)との連携。
- ・キャリア教育として、進学説明会や、大学、専門学校説明会等の講座を開催した。
- ・進学や就職希望者に対する支援対策の充実に向けた教職員研修を実施した。

(5) 情報発信・広報活動の充実

- ・郵送等の対応だけでなく、学校の HP や各教科の HP の開設、桃通メールを活用し積極的な情報発信を行った。桃通メールの登録件数 580 名、発信回数 30 回
- ・登校してきた生徒には、インフォメーションディスプレイの更新を週当たり 1.5 回行った。

②通信制課程の協議

○ほとりカフェの利用者が減っているのはなぜですか。

→昨年は府の予算が措置されていたため、回数・期間が十分に確保できた。

今年は予算が措置されなかったため、回数や期間が十分に確保できなかった。

しかし、相対的な利用者に変化はないと思われる。

○スクーリングの時間帯にカフェの開催を外したのは、スクーリングの時間にカフェに参加してしまう生徒が多かったからですか。

→スクーリングの時数が足りている生徒は、HR や総合的な学習の時間に参加せずにカフェに参加してしまうことがよく見られた。教育的な配慮から今年度はそういう生徒を出さないためにもスクーリングの時間帯でカフェは開催していない。

○ほとりカフェの利用者はいつも同じメンバーなのですか？

→ほとんど同じメンバーである。

○Ⅲ部の話に戻るが、Ⅲ部はかめカフェは行っているのか？

→今のところ開催していない。今後打ち合わせ等を行い 1 月か 2 月に短期間であるが開催する予定である。

【全体を通して】

○多部制単位制 I・II 部の進路説明会に大阪芸術大学を招待してはどうか？

以前本校生徒も同大学を卒業しており、芸術大学を希望する生徒にとってもよい思う。

⇒検討します。(I・II 部校長より)